

# ほっとする場をつくる —「キッチンカーあったまる」の実践を通して—

Create a place to relax: Practice of The Kitchen Car "Atmaru"



総合政策学部 2年 原田馨子  
環境情報学部 2年 山田璃々子

## 動機・目的

私たちはキャンパスに出店するキッチンカーによる、カフェスペースの運営を中心とした「ほっとひと息つく場」づくりをしている。本プロジェクトを立ち上げたきっかけは、大学生活を送るなかで抱いた「ほっとひと息つく場」があったらいいなという想いからである。本来、大学は講義を受講しにくるだけの場所ではないはずだが、とりわけSFCでは一人ひとり時間割が異なるうえ休み時間も限られていることが拍車をかけ、そのような「目的のある何か」に追われる学生も少なくない。そんな時、キッチンカーの周りでおしゃべりしている学生を発見し、キッチンカーを用いた場づくりで、蔑ろにされてしまいがちな「ほっとひと息つく場」がつかれるのではないかと考え実践を始めた。その実践から、「ほっとひと息つく場」とは、授業や研究会、プロジェクトのような共通の目的を持った集まりのための空間ではなく、目的のない「気軽なおしゃべり」や「ただ休憩すること」であるということが解ってきた。ここでは約1年半にわたる「ほっとひと息つく場」の探究と考察を報告する。

## キッチンカーでの場づくりにおける実践の経緯、試行錯誤

### 実践、試行錯誤したこと



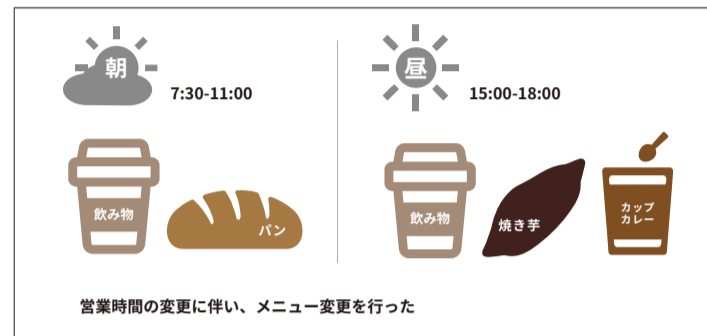
#### カフェスペースの設置

キッチンカーの横にカフェスペースを設ければ、足を止め「気軽なおしゃべり」や「ただ休憩すること」を誘発できるのではないかと考え実行した。



#### 「気軽なおしゃべり」を生み出すメディアづくり

2019年12月の出店では、見知らぬSFC生とお手紙交換をする企画を行った。また、2020年1月の出店では、キッチンカーに訪れた後も学生同士の交流が生まれるよう「大切な誰かへ送れる年賀状」の配布を行なった。



#### 時間帯の変更とそれによるメニューの変化

当初は朝の8:30~11:00の時間帯に出店した。その後、授業前はキャンパスにいる人が限定されることが分かり、出店時間を15:00~18:00に変更した。夕方は腹ごしらえをしたい学生が一定数いたことからメニューに軽食を追加するなど時間によるメニュー変更も伴った。

## 発見したこと

### 「ゆるい関わり」

「ゆるい関わり」とは「コミュニティへの強制力を手放した関わり方」のことをさす。多くのコミュニティで役割を期待される中で、その強制力が無い「ほっとひと息つく場」においては、「ゆるい関わり」が許容されているのである。

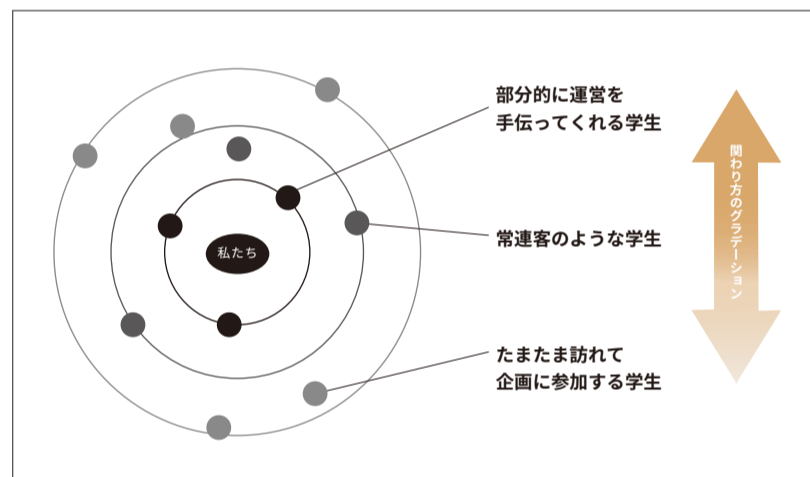
### 「ゆるい関わり」の構築

#### ・関わり方のグラデーションを用意する

キッチンカーあったまるではコアメンバーである私たちが企画設計、運営を行う周りに、個人の得意分野を発揮して、部分的に運営を手伝ってくれる学生が存在する。例えばカフェスペースの椅子の提供や、ロゴ制作、ストレッチのインストラクターなどだ。その周りには常連客のように毎回訪れる学生がいて、さらにその周りにはたまたま訪れて企画に参加するといった、「ゆるく関わる」人がいる。(図1)なお、これらは何か制度として明確な線引きをしているわけではなく、いつでも本人の任意により行き来できるようにし、「ゆるく関わる」ことを可能にしている。

#### ・キッチンカーカフェという施設自体が果たす役割

キッチンカーカフェは屋外空間に設置しているため、空間の雰囲気を通りすがりの人に伝えることが容易い。空間の切れ目が明確でないことからゆるやかに人が集い、好き好きに場を共有することができるのは、キッチンカーカフェならではの役割だ。



(図1)

## コロナ禍での新しい試み

### 実践したこと

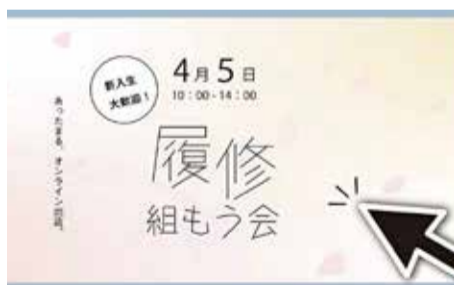
#### オンライン出店



#### あったまる新茶「環」の販売

コロナ禍で出荷停止を余儀なくされた静岡のお茶をブランド化し、オンラインで販売した。ほっとひと息をつくお供として、約4020杯のお茶をお届けする。

#### オンラインイベントの実施



#### ①「履修組もう会」開催

コロナ禍によりオンラインであったまる企画を実施。新入生も多く参加してくれゆるやかなつながりが生まれた。



#### ②週末ストレッチ企画「あったまる〜む」開始

SFC生にインストラクターをお願いし、週末の朝にストレッチを行う。オンライン授業で凝り固まった身体をほくしながらお話しする空間をオンラインでもつ。



#### ③ラジオ企画「まるらじ」

自分を大切に生きている人をゲストにお招きし、そのマインドを尋ねるラジオ番組を発信する。

### 実践してわかったこと

#### コロナ禍による「ほっとひと息つく場」の必要性

オンライン講義の続く日々は、講義を受講しに行くためだけにキャンパスに行くような感覚であり、その疲労感に、目的のない「ほっとひと息つく場」の重要性を再認識した。さらに自分を休ませるという意識を向けられない限り休息の場は作り得ないという気づきから、ほっとひと息つくことはつきつめると自分を大切にすることにつながるということが明らかになった。

#### オンライン下での「関わり方のグラデーション」

特に学校に通えないまま授業が始まった新入生にとって今年は、関係構築の機会が失われた状況であった。あったまる〜むにおいては、インストラクターをSFC生が担当しつつ、「ゆるい関わり」として隔週参加の学生の存在を感じた。オンラインでの場づくりにおいても、関わり方のグラデーションの可能性を感じた。

## 今後の計画や展望

コロナ禍で自宅から授業を受ける日々は学生の私たちにとっても、容易なものではなかった。終了ボタン一つで授業は終わるけれど、感情をもつ人間という生き物はそんなに簡単に切り替えることができない。「気軽におしゃべりがしたい」「ちょっと休みたい」そんな気持ちが沸々と溢れ出たまま時間が経ち、また次の授業URLを押す日々のなかにいた。だからより一層、誰かとつながることや追い込む自分を休めることは切実になってきていると実感している。まさにそれは私たちがずっと大切にしてきた「ほっとひと息つく」ということではないだろうか。これからも私たちキッチンカーあったまるは、自分を大切にすることをお手伝いを学生目線で行なっていきたいと考えている。